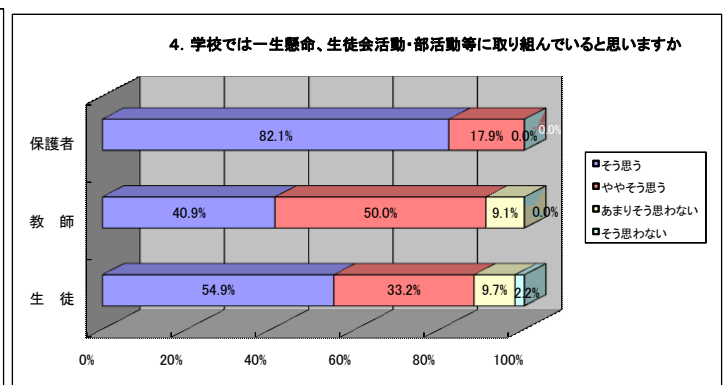
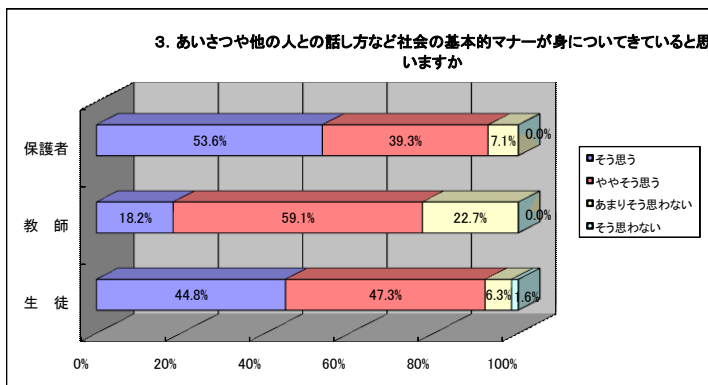
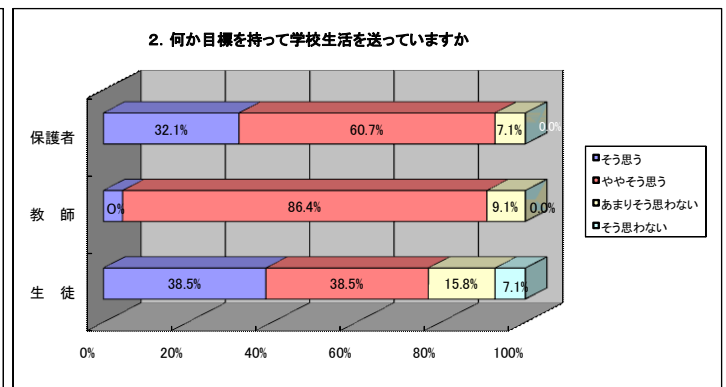
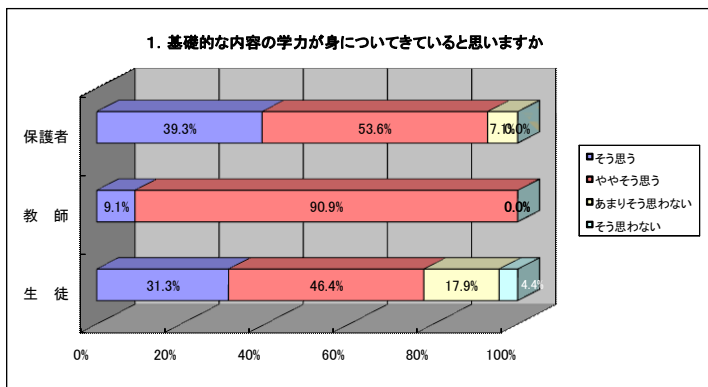


- 1 調査目的 生徒がより良い教育活動を享受できるように、学校が学校としての目標や取組等の達成状況を明らかにして、その結果をもとに学校運営の改善を図るために行う。
- 2 実施時期 平成26年12月実施
- 3 調査対象 教師・保護者・生徒
- 4 調査内容 12の設問 教師と保護者・生徒は同様の質問内容  
ただし、生徒は設問5と設問12のみ内容的に適さないため割愛
- 5 調査結果と考察

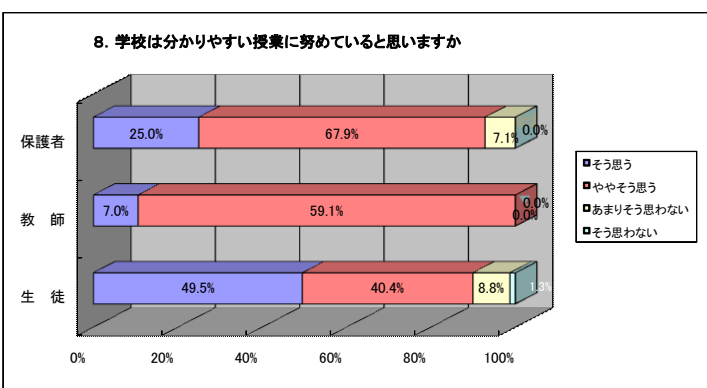
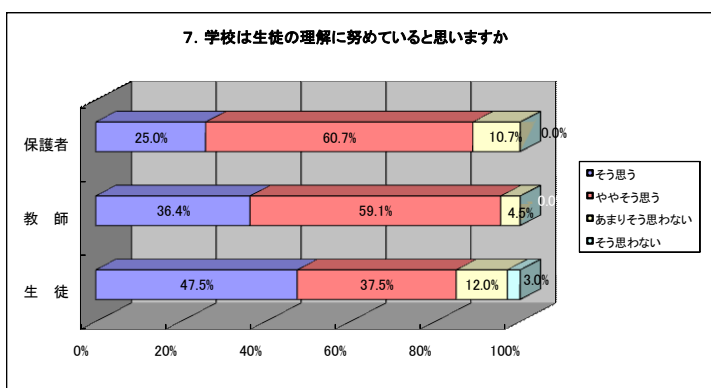
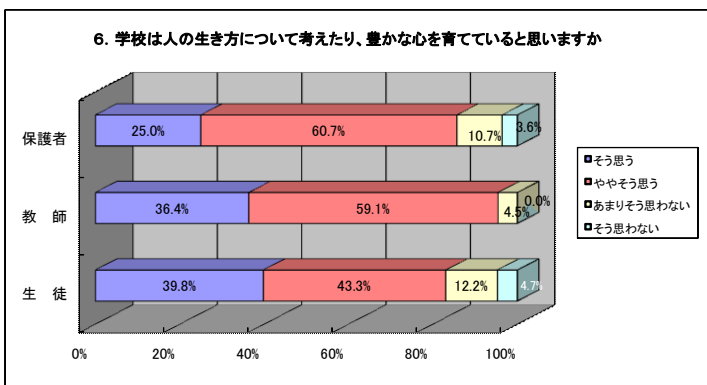
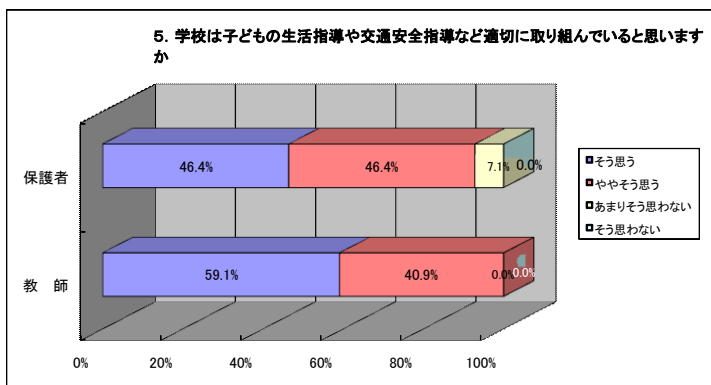


☆設問1では、生徒からの「あまりそう思わない・思わない」の評価が多く、基礎的な学力定着への不安が感じ取られました。家庭学習する時間をしっかり確保し、学校と家庭とが協力し合い、基礎的な学力の定着を確実なものにしていく中で生徒自身も学習に対する成長を実感してほしいです。

☆設問2については、約23%の生徒が「あまりそう思わない・そう思わない」の評価結果でした。ご家庭でのお子さんとの会話を大切にいただきながら、学校の様子を聞いていただいたり、お子さんに応じた目標意識を高める示唆等をしていただいたりする中で、ご協力をいただきたいと思っております。学校においても、目標を持つことの大切さや目標を持つことで学校生活が一層充実することを続けて指導していきます。

☆設問3の基本的マナーについては、生徒、保護者ともによく身につけているという評価ですが、教師の「あまりそう思わない」という評価が多い点が気になります。継続課題として、その都度指導すると共に家庭と学校の共通理解が必要と思われれます。

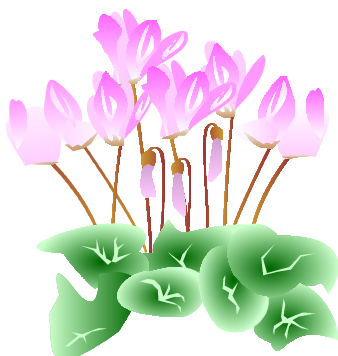
☆設問4では、生徒・保護者の約1割が「あまりそう思わない」という回答でした。保護者の期待通りに教師、生徒が「そう思う・ややそう思う」で100%の回答結果がえられるような充実感や達成感が味わえる活動としていきたいと思っております。

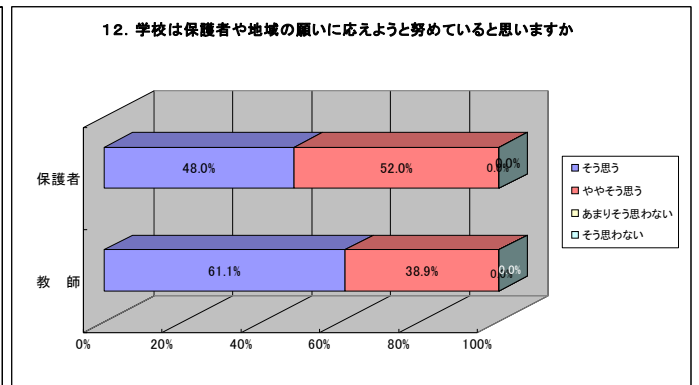
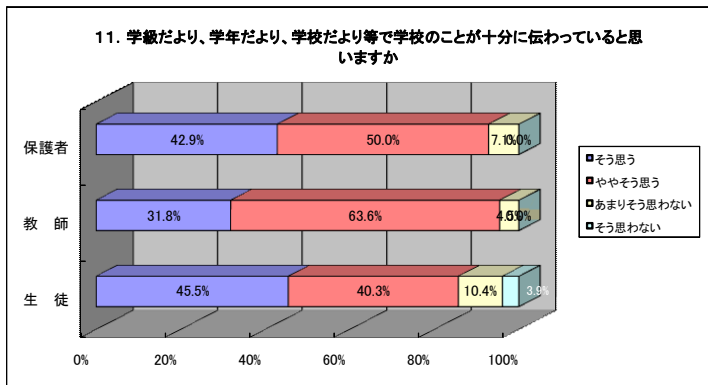
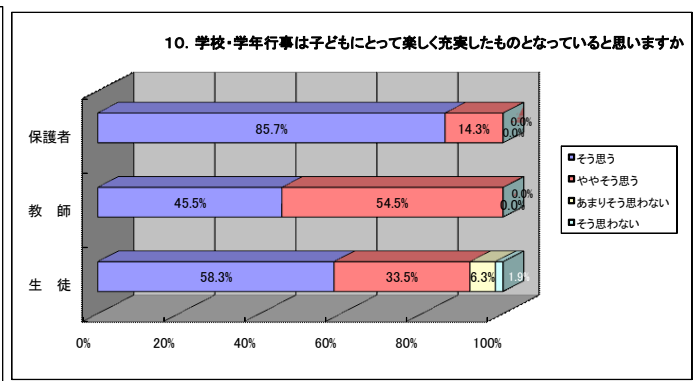
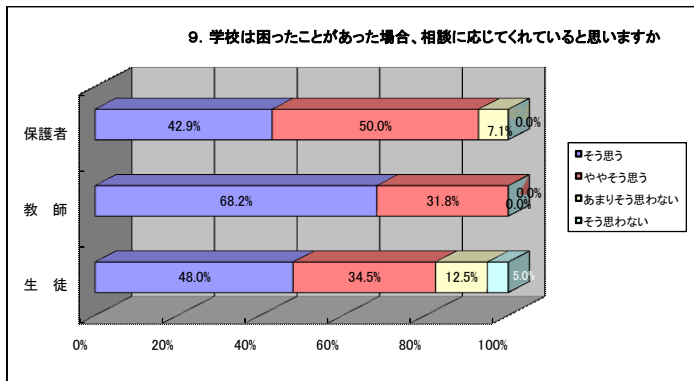


☆設問5の生活指導と安全指導に対する取組については、保護者や教師からよい評価を得ることができました。ただし、命に関わる大切な項目なので、全ての保護者の信頼を得られるよう今後も一層の努力をしていくことが必要だと思います。

☆設問6の「人の生き方」「豊かな心」については、学校経営方針の重点項目にも思い遣る心として掲げられている内容です。全職員が生徒や保護者の方の評価結果を重く受け止め、生徒にも実感できる日々の実践に繋げていくよう努力していきたいと思います。

☆設問7と8では、教師は自分なりに頑張っている様子が伝わってくるのですが、保護者や生徒の10%前後が「そう思えない」現状があることをしっかり踏まえ、充実した生徒理解のもとでの学級経営及びわかる授業を目指した学習指導に全力であたっていきたいと思います。





☆設問 9 では、教師の 7 割近くが保護者・生徒への相談に応じていると考えているのですが、保護者や生徒は 5 割程度しか相談に応じてくれている（そう思う）と思っていない厳しい評価となりました。さらに生徒や保護者の方の中には、「あまりそう思わない・そう思わない」という回答も多く、教師は危機感を持ちながら、今後相談機能を充実させることを意識していかなければなりません。今後も生徒一人一人の声を大切に、しっかりと相談を受けとめていきたいと思えます。

☆設問 10 の学年・学校行事が楽しく充実したものになっているかという問については、保護者の方々からはとてもよい評価をいただきましたが、少数の生徒から「あまりそう思わない・そう思わない」という残念な評価をいただきました。それぞれの行事の在り方を再度確認する中で、すべての生徒から「そう思う」という評価が返ってくるような行事を企画できるよう努力を続けていきたいと思えます。

☆設問 11 では、教師のそう思うが 3 割程度しかない自己評価結果が、保護者や生徒の「あまりそう思わない」の回答数へ結びついているようです。この評価結果は、学級だよりによる情報の発信への評価が表れていると思われませんが、学級だより以外の情報発信の方法をとっている先生方もいます。具体的には生活記録ノートへのコメントもひとつの発信方法です。それぞれの先生方の情報発信の方法にもご理解いただきながら、今後も継続して保護者の方々に積極的に発信していくよう努力します。

☆設問 12 では、保護者や地域の願いに応えようという教師の思いが伝わる結果となってしまいましたが、教師自身のこのような思いを保護者の方々にも理解していただきながら、認めていただけるような実践をさらに展開していきたいと思えます。